

# 令和2年度 学校評価中間報告

## 1 教育活動

令和2年9月18日 石川県立医王特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	判定基準	分析（結果と課題及び改善策等）
(1) 生きる力の育成	① 主体的・対話的で深い学びの充実	小中高	授業に自ら取り組み、授業内容を理解できたとする児童生徒の割合が A：80%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	AB組児童生徒1名 A：1名（100%） B：0名 C：0名 D：0名 AB評価で100%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 課題：在籍する生徒1名は、授業に落ち着いて取り組んでいる様子が見られる。今後も生徒が意欲的に学習に向い、授業内容の理解が深まるように工夫していく必要がある。 改善策等：生徒がさらに意欲を持って取り組めるように、引き続き生徒の実態把握を行い、ICT等を活用して授業改善を行っていく。
		病棟訪問教育	コミュニケーションに配慮した指導・支援を行い、事例検討会や記録の活用を通して、指導・支援の改善が見られたと考える教員の割合が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	指導・支援の改善が見られた ：10名（100%） 見られなかった ：0名	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 課題：3名の教員異動と小中高から応援1名を得ているため、より綿密な情報交換が必要となっている。校内研究会、事例検討会、授業の打ち合わせなど多くの話し合いの時間が必要である。 改善策等：研究授業は2学期中に実施予定である。授業改善は研究授業の対象授業だけでなく他の授業にも生かしていく。日頃の授業ではねらいに沿った必要な記録を正確に書き留める工夫をしていく。
(2) 教員の専門性の向上及び働き方の工夫	① 授業力向上・ICT等の効果的な活用	教務課	ICT等を活用した研究授業や改善授業をとおして、授業目標の達成につながることができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	授業目標の達成につながることができた：9名（56%） できなかった：4名（25%） 未回答：3名（19%）	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：D 課題：1学期を終えた段階で、研究授業はまだ行われておらず、通常の授業での評価と思われる。2学期以降各部で研究授業を実施し、授業整理会で各授業の評価をし回答してほしい。 改善策等：2学期以降、ICT等を活用して研究授業を実施し授業改善に役立てていく。（病棟訪問教育で2回実施予定。小中高は児童生徒の状況を見て判断したい。）

		②	病種理解のための研鑽	教務課	病種理解のための校内研修会を受け、児童生徒への対応や指導に活かすことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	児童生徒への対応や指導に活かすことができた ：8名(50%) できなかった ：6名(38%) 未：2名(13%)	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：D 課題：「病種理解の校内研修会」には、毎月の校内研究会や事例検討会での研修も含めているが、この点の周知が不徹底だったと思われる。 改善策等：2学期には2回の公開校内研修会が予定されており、さらに各部の研修会も含めて回答してもらうよう周知する。
		③	効率的校務処理の推進	教頭	効率よく業務に取り組み、業務改善を行って時間外勤務時間を減らすことのできた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	業務改善を行った ：11名(69%) 行えなかった ：5名(31%)	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：D 課題：業務改善を行うことができたと回答した教員の割合は69%であった。校務分担等の見直しがさらに必要であるという意見があった。時間外勤務は、休業期間があり、月平均で昨年度(4～8月)より3時間ほど減少している。今後は、各自での業務改善とともに、学校全体で推進する必要がある。 改善策等：学校全体での校務内容等の見直しをさらにすすめ、分担等も調整していく。
(3)	安心安全な学校作り	①	ヒヤリハットの活用	指導課	ヒヤリハットの報告・周知を行うことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	報告・周知を行うことができた ：16名(100%) できなかった ：0名(0%)	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 課題：ヒヤリハットの報告・周知が徹底されてきている。今後は件数の減少につながるような声かけが必要である。 改善策等：本校の傾向等を分析し、職員朝礼等で注意喚起していく。
		②	安全防災対策の充実	指導課	安全防災に関する授業や研修等を受け、実際に判断し行動できると答えた児童生徒・教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	実際に判断し行動することができた 【児童生徒】1名 できた：1名(100%) できなかった ：0名(0%) 【教員】 できた ：16名(100%) できなかった ：0名(0%)	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：【児童生徒】A 【教員】A 課題：児童生徒は授業や訓練後の振り返りで、行動できると回答した。教員も全員行動できると回答した。今年度は地域のハザードマップの確認、学校の防火シャッターの動作確認、非常食体験等新しい研修内容も実施したが、より実際に即した安全防災対策を充実させる必要がある。 改善策等：安全防災に対する知識が身につく、知識を生かして行動できるように継続して授業や研修、避難訓練等を行っていく必要がある。

(4)	保護者 病院、 地域と の連携	①	教育活動 への理解 のための 広報活動 の推進	総務課	学校だよりや学校ホームページにより、学校における新しい情報を得ることができたと回答した保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	保護者15名 A：9名(60%) B：1名(7%) C：0名 D：0名 未：5名(13%)	C、Dの場合 は、工夫改善 を図る。	結果：D 課題：今後も情報の更新を継続していく必要がある。 改善策等：児童生徒の様子だけでなく教員の取組等も 紹介していく。
-----	--------------------------	---	-------------------------------------	-----	--	--	--------------------------	---

## 2 センターの機能

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	判定基準	分析(結果と課題及び改善策等)
(1) 小中高 等学校 ・特別 支援学 校・関 係機関 との連 携	① 教育機関・ 他機関と の連携	コーデ ィネー ター、 専門相 談員	地域の小中学校病弱・身体虚弱特別支援学級担当者や養護教諭等と連絡を取り合う機会が各学校 A：3回以上あった B：2回あった C：1回あった D：なかった	電話等連絡を取り合 う機会が各校2回あ った	C、Dの場合 は、工夫改善 を図る。	結果：B 課題：小中学校病弱・身体虚弱特別支援学級担当者に 電話連絡や資料送付、アンケート調査を実施した。 9校中7校が新任者で、昨年度からの繋がりを深め ていく必要がある。 改善策等：今後も定期的に連絡を取り、必要に応じて 積極的に情報提供を行う。
	② 小中高 等学校・特別 支援学 校等へ の情 報提供	教務課	講演会・研修会の内容が参考になったと回答した外部参加者の 割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	外部参加者0名 A：0名 B：0名 C：0名 D：0名	C、Dの場合 は、工夫改善 を図る。	結果：D 課題：病弱教育に関する公開講演会・研修会を計画し ていたが、新型コロナウイルス感染症への対策のため未だ実施していない。 改善策等：11月に2回の公開校内研修会を予定して いるが、外部の参加が困難である。
(2) 前籍校 病院等 との連 携	① 児童生徒 に即した 支援の充 実	小中高	前籍校・病院等と連携し、個々に合わせた支援を行うことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	小中高AB組担任 1名  個々に応じた支援を 行うことが できた：1名(100%) できなかった ：0名(0%)	C、Dの場合 は、工夫改善 を図る。	結果：A 課題：今後も前籍校や病院と連絡を密にとって、情報 交換していく必要がある。 改善策等：病院と日常的に連絡・確認しながら児童生 徒個々に応じた支援を行っていく。前籍校の担任等 とはメールでのやりとりも含めて連絡を取り合い情 報交換していく。